

株式会社クラレ「2023 年度第 1 四半期決算説明会」質疑応答要旨

日 時 2023 年 5 月 12 日（金） 12:00～12:53
場 所 ㈱クラレ 本社 ※電話会議にて実施
説明者 取締役・常務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治
常務執行役員 ビニルアセテート樹脂カンパニー長
兼 エレクトロニクスマテリアルズ推進本部担当 渡邊 知行
IR・広報部長 滝沢 慎一

1. 主要製品の数量伸長率

	22 年上期実績 →23 年上期見通し	22 年下期実績 →23 年上期見通し
光学用ポバールフィルム	▲約 20%	+30%強
水溶性ポバールフィルム	▲5%弱	▲5%強
PVB	若干マイナス	若干プラス
エバール	横ばい	▲約 5%
ポバール樹脂	▲20%強	横ばい
エラストマー	横ばい	+10%強
ジェネスタ	+5%弱	+10%強
活性炭	+約 5%	横ばい

2. 質疑応答

- Q1 ビニルアセテートセグメントについて伺いたい。22 年 4Q から 23 年 1Q にかけて、在庫評価差額の影響を含め、各事業でどのように利益が変動したのかを教えてください。
- A1 光学用ポバールフィルムは数量が増えたが、昨年から持ち越された在庫評価差額の影響が 1Q に発現し減益となった。ポバール樹脂は数量が若干増えたものの、在庫評価差額のマイナスが 1Q に発現し減益。PVB フィルムは数量増、価格改定が 1Q に進展し、在庫評価差額のマイナスを価格改定でカバーし増益。エバールは若干数量が減ったが、価格改定の効果が継続したことにより、在庫評価差額のマイナスをカバーし増益。水溶性ポバールフィルムは需要が若干減退し数量が減り減益。これら各事業でのプラスとマイナスの入り繰りがあり、セグメント全体では売上高、営業利益ともに減少した。
- Q2 2Q にかけて在庫評価差額のマイナスは残るのか。
- A2 一部在庫期間の長い製品では 2Q に持ち越されるが、主には 1Q に発現している。

- Q3 23 年 1Q から 2Q にかけて減益なる見込みだが、イソプレンセグメントの定修差が大きいことが主因か。また 23 年 1Q から 2Q にかけて調整費が大きくなっている理由を教えてください。
- A3 ご指摘のとおり、イソプレンの鹿島での定修は例年通りに 2Q に実施するため、その段差が大きい。また同じくイソプレンではタイ拠点から稼働を開始しているが、ジェネスタとエラストマーについては 2 月から償却を開始している。2Q の方がより償却費は大きくなる。また、イソプレンケミカルについては 2Q から償却が開始される。
- 調整額については、2Q に実施する定修において各セグメントに割り振れない共通費が発生するため、その差が段差となっている。
- Q4 22 年 4Q から 23 年 1Q にかけての調整額の段差について教えてください。
- A4 22 年 4Q には各セグメントに振り分けできない全社共通のユーティリティ費用によるマイナスが発生したが、23 年 1Q にはマイナスが発生していない。
- Q5 ビニルアセテートセグメントでは、23 年 1Q から 2Q にかけて 30 億円強の増益を見込んでいるが、在庫評価差額のマイナスがなくなることが要因か。製品・用途の状況を踏まえ、増益の理由を教えてください。
- A5 ビニルアセテート全体として、1Q には在庫評価差額のマイナスが大きく発現しているが、在庫が入れ替わるため、2Q ではプラス側の段差となる。その他の要因については、数量増を見込むのが、ポバール樹脂、エバール、水溶性ポバールフィルム。高付加価値品を中心に堅調な需要が見込まれる。これらの要因により 2Q にかけての増益を見込んでいる。
- Q6 光学用ポバールフィルムの需要環境について伺いたい。需要の 1Q から 2Q のトレンド、下期の前提について教えてください。
- A6 光学用ポバールフィルムの 23 年 1Q の状況は、4Q から 1Q では+10%強だったが、前年比では▲20%であった。22 年前半は好調だったため、依然としてまだ低い水準。2Q については 1Q からは横ばい、前年比で▲20%と見ている。全体の状況としては、サプライチェーンでの在庫調整は一段落したと見ており、当社の顧客の生産に合わせた需要になっていると認識している。一方で、大型液晶テレビの需要については、残念ながらまだ本格的な回復には至っていない。1Q の実績が当初の予定よりも若干上向きとはなっているものの、本格回復は下期からになると見ている。サプライチェーンの在庫調整も済んでおり、顧客の稼働が上がれば、当社からの出荷も上向くと考えている。

- Q7 ビニルアセテートの上期見通しで、営業利益を 40 億円、上方修正した要因について伺いたい。また、光学用ポバールフィルム以外の製品で、数量動向に変化があれば教えてほしい。
- A7 PVBフィルムは他の製品と比べると価格改定が遅れていたが、やはり原燃料価格高騰の影響は大きく、お客様と交渉を進め価格改定を受けいれただき、増益を見込む。エバールは、数量は横ばいだが、価格改定の進捗及び需給がタイトな状況により、増益を見込む。水溶性ポバールフィルムは数量減により利益はマイナス方向を見込む。
- Q8 エバールは業界として需給がタイトで、25 年ぐらいまで生産能力が増える大型投資がない状況が続くとみる。需給面、供給面の状況は。
- A8 エバールの現在の需給は比較的タイトである。22 年度にはサプライチェーンが米国の寒波の影響を受け供給が減少し、顧客の需要に十分に対応できなかった面がある。昨年は自動車生産が本格的に回復していなかったが、今年になってから自動車の生産台数が増え始め、半導体不足の問題も解決に向かい、ガソリントank用途の需要が増えている。EV 化の進展はガソリントank用途の需要を押し下げる要因にはなるが、一方で新興国での自動車需要は伸長しており、25、26 年までは漸増と見ている。また、食品包装用途では二つの大きな動きがある。プラスチック包装材のリサイクル化が一つ。リサイクル化において、エバールの薄物の適用性が評価されている。また、食品の品質保持期限を延ばし廃棄を減らしていく動きがもう一つ。これらが当社にとって追い風となる。当社では、日米欧の 3 拠点で生産しているが、それぞれの拠点に合った銘柄を生産する、また銘柄切替を減らし集中的に生産する等により、トータルの生産量を増やすことで、25 年まで顧客の需要を支える供給ができると考えている。
- Q9 エバールの営業利益率が向上していると推定している。今後も良化していく可能性はあるのか。
- A9 生産能力の増強を継続していく必要があり、デボトル等の投資も必要となる。中長期では現状を維持するイメージで考えている。
- Q10 イソプレンの上期営業利益予想を▲35 億円下方修正した背景は何か。併せてジェネスタにおける電子・電子デバイスの在庫調整がいつ終わるかの見通しも説明いただきたい。
- A10 化学品、エラストマー、ジェネスタいずれも景気減速の影響などにより、期初計画よりも出荷数量が落ち、減収減益となっている。加えて、稼働開始したタイ拠点の稼働率が、期初計画よりも低い状態である影響もある。ジェネスタにおける電子・電気デバイスの在庫調整及び全体的な需要状況は、期初の想定よりも厳しいが、現在精査中で 2Q 決算発表時に通年の見通しを説明させていただく。

- Q11 ポバール樹脂、エバールを中心に、欧州の天然ガス価格下落の影響を教えてください。
A11 欧州で生産しているポバール樹脂、エバールは恩恵を受けており、ビニルアセテートの利益を上方修正した要因の一つである。なお、サーチャージ制を導入している製品については、一定の価格調整することになるが、タイムラグがあり、また、販売価格を維持できる製品もある。
- Q12 機能材料セグメントの 23 年 1Q の好調の背景と、2Q 大きく減益となる理由を教えてください。
A12 メディカルの歯科材料は、季節因により 1, 3Q は利益が多く、2, 4Q は利益が少ない傾向があることに加えて、23 年 1Q は欧州向けの輸出が好調だった。2Q は季節因により減益となる。
環境ソリューションは、23 年 1Q にまとまった出荷があった影響で 2Q に段差が発生している。また、石炭系活性炭には石炭価格にリンクした価格フォーミュラとなっている製品があり、1Q はフォーミュラの指標が上昇したことにより利幅がやや大きくなった。2Q は当社の石炭購入価格も上がる見込みをしており、本来の利益水準に戻ることも段差の要因である。
- Q13 配当について、当期利益を下方修正した結果、34%の配当性向となったが、現状の配当水準をどのように考えているのか。
A13 年初は最低限の水準として 48 円の配当予想を出した。還元の見直しは、自己株式の取得も含めて検討を進めた上で、2Q 決算発表時に公表する。
- Q14 PBR 1 倍割れに対する会社の考え方を伺いたい。
A14 PBR 改善に関する議論は当然認識しており、1 倍以上を目指したいと考えている。
PBR をブレイクダウンすると ROE と PER となる。
ROE は 22 年の実績が 9%と一定の水準に達しており、26 年 10%に向けて一層の向上を目指す。
PER は将来に対する期待であると理解している。自社だけでコントロールできるものではないが、ポートフォリオ見直しやイノベーション・ネットワーキング・センターでの新規事業創出などを含めて、将来の成長を期待いただけるよう情報発信していく。
これらの取り組みを通じて将来の成長を確信いただけるよう努めていく。
なお、株主還元だけで PBR を向上させることは考えていないが、PBR 向上に向けた取り組みの一つとしては議論している。自己株式の取得、増配を含めた還元方針については、23 年 2Q 決算発表時に公表できるよう検討を進める。

以上

注意事項

本資料は、説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、理解しやすいように当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性 があることをご了承ください。